



写真2 北野天満宮

す。最後に訪れた神泉苑は、平安時代に流行した疫病の原因と思われる御霊を鎮めるための「御霊会」を行った場所です。毎年7月には今でも「御霊会」が行われています。

その他にも、関連研究分野の研究者を訪問することができました。佐野賢治

先生のご紹介で、疫神信仰を深く研究されている神奈川大学外国語学部の山口建治先生や、民俗学の視点から日本の民間信仰を研究なさっている大島建彦先生を訪問するなど貴重な機会を得ました。また、指導教官である小熊誠先生を含めそれぞれの先生から、直近に出版され



写真3 神泉苑

た著作をいただきました。

わずか3週間という短い期間でしたが、充実しており多くの収穫がありました。今回の訪問研究が、これからの研究活動に大いに役立つものと確信しています。最後に、訪問研究期間中にお世話になった神奈川大学の諸先生方、そして非文字資料研究センターのスタッフの皆様にあたためて感謝を申し上げます。

日本の現代社会における伝統生活様式の伝承について

黄 亜欣
(華東師範大学)



2016年9月20日から10月10日までの日程で神奈川大学を訪問し、滞在中に横浜中華街、東京国立博物館や江戸東京博物館、鎌倉の鶴岡八幡宮および北野神社(山崎天神)、日本民藝館、国立歴史民俗博物館などを巡り、研究調査を行った。幸いなことに、日本民俗学会第68回年会に参加する機会をも得た。また最後の3日間は佐野ゼミの合宿旅行に同行し、安雲野と松本を訪れた。

今回の訪問目的は日本の現代社会における伝統生活様式の伝承を調べることである。実地調査を通じ、伝承と保護の面で参考になるところが多いと感じたため、以下で具体的に述べたい。

一、伝承者の保護を重視している

実地調査をした際、民俗行事に参加する人の中に数多くの小中学生を見た。北野神社での行事の演奏者は大体が青少年たちであった。菅生神社で獅子舞を踊るのは中学生であり、参加者の中には小中学生も多く含まれていた。小さいころから民俗行事を大事にする意識が育まれ、彼らは主体的に参加するよ

うになったのだろう。その結果、民俗保護とは、政府や関係機関のみが取り組むという特殊なものでなく、一般市民の日常生活の一部として深く入り込むことになったと思われる。



写真1 鎌倉北野神社神楽の上演



写真2 菅生神社の初山獅子舞

二、民衆の自覚が肝要である

神社やお寺へ参拝に行き、祭祀活動に参加するのは民衆が神様を心から信仰しているためである。例えば、日本人は生後一か月や七五三の良い日にわが子を連れて神社やお寺に参拝し、神様のご加護が受けられるよう祈る。さらに、多くの新郎新婦は結婚する際、神官に導かれる伝統的な神前式を選ぶとも聞く。様々な事例から、神様に対する信仰は民衆の心に根差し、自発的な行為であることを示している。

三、景観の保護を重視している

神社の周囲にある数多くの古い建物では、かつて神社の一部の活動が行われていたようだが、それらは商店や喫茶店に改築された今もなお、当時の姿そのままに保存されている。中国では周庄のような古い町で、多くの古い建物が撤去され新しい建物が造られている。日本の景観に対する保護意識は我々も学ぶべきであろう。

四、地域活性化を提唱している

2016年10月1日から3日まで、日本民俗学会第68回年会在千葉商科大学で行われた。大会は「民

俗学と〈地域活性化〉」をテーマとして、国内や海外の研究者を集め、地域活性化をどのように民俗保護分野に活用するかを検討した。大会では熊本大学の山下裕作教授、慶応義塾大学の鈴木正崇教授、尚美学園大学の櫻井準也教授らが研究報告をした。元々経済分野で使われている地域活性化という方法を、民俗保護分野に活用することが、日本民俗保護における新しい道を作り出したといえる。

日本の現代社会における伝統生活様式の伝承の状況をひとつと理解したところで、また新しい疑問が出てきた。例えば、これらの伝統生活様式が現代社会で伝承し続ける原因は何か、伝承の形と様式にはどのような変化があるのか、急速に都市化している日本では今後の

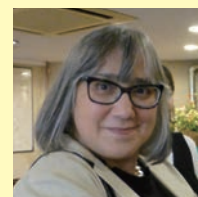
伝承はどのように続くのか、といった疑問である。以上の問題点はこれからの課題としてさらなる研究が必要となろう。



写真3 日本民家園を訪問

現代日本のミュージアム建築の空間言語

ジアダ リッチ
(フランス国立高等研究院)



建築家、展示デザイナー、博物館学者として活動する専門家のプリズムを通して現代ミュージアムにおける空間概念を研究する私は、日本の伝統的な美学と空間コード（基準）にも通じる特徴の一つとして「現代日本のミュージアム建築の空間言語—アートミュージアムにおける展示デザインと作品陳列のコンセプトおよび特徴」というテーマに取り組んだ。日本の現代ミュージアムに対するこうした解釈に至るまでに、主要な文書・非文字資料を研究し、最新のアートミュージアムを訪問・評価し、さらにインタビューによって関連する情報や意

見を集めた。アートミュージアムを解明するために非文字文化として建築空間を活用する方法により、ミュージアムと展示デザインについて概念的ビジョンから感じ方に至るまで考察し、また美術作品・オブジェの陳列を自然や今日の都市景観と関連付けながら分析した。現代のミュージアム建築および展示方法は日本の伝統に深く根差しているというのが、この研究の主たる論点である。

近代以前の伝統については、主要な資料として浮世絵